



AEFA アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association

フレンド会報 28号

ビル名が
変わりました

〒102-0074
東京都千代田区九段南2-3-22
アーバンセカンドビル3F
TEL:03-6265-6490
FAX:03-6265-6491



2019年7月15日 発行

AEFAの3層構造理念



本に出会う子どもたち INDEX

学校建設・プラスプロジェクト一覧

「出前授業」が東京都後援へ



読書を通じて未来を拓く

図書室設置と読書習慣啓蒙活動の「レインボーライブラリープロジェクト」がベトナムで始動

小学校の図書室には多くの本が並び、子どもたちはいつでも読書を楽しむことができる。日本では当たり前のことですが、世界には、子どもたちの読書環境が整っているとはいえない地域が数多くあります。例えばベトナム山岳地帯の小学校では、図書室はおろか本棚もなく、教室にも教員室にも教科書しかないのが実情です。

ベトナムの子どもたちにも、本を通して広く新しい世界を知り、夢を育む環境を届けたい。そんな願いから「レインボーライブラリープロジェクト」が生まれました。

近年、ベトナムでは小学生の読書習慣を啓蒙する活動が活発に行われています。AEFAが提携している現地NGO、CSD (Research & Communication Centre for Sustainable Development)でもその活動を推進しており、AEFA/CSDの共同プロジェクトとしてレインボーライブラリーがスタート。その第一弾として、沖縄ワタベウエディング株式会社様のご寄付により、2018年12月にトゥエンカン省イエンソン郡のキエンティエット小学校

に図書室を開設することができました。

キエンティエット小学校に寄贈された本は、手にとりやすい絵本を中心に約500冊です。屋内の図書室のほか、子どもたちが自然の中で本に親しむことができるようにと屋外読書スペースも設置されました。

図書室お披露目の日。日頃本に接していない子どもたちが、はたして興味を示してくれるだろうか、、、そんな不安は一瞬で吹き飛んでしまいました。我先にと駆け寄り、取り合うようにして本を手にする子どもたち。ページを開きながらこぼれる笑顔。本と出会う場があれば、子どもたちは読んでくれるのです。

このプロジェクトが目指すのは、図書室や読書スペースの設置・本の寄贈だけではありません。先生による読み聞かせのほか、子どもたちが読んだ本の内容を発表したり、本のお話をもとにお絵描きをしたりと、本に親しむ習慣を定着させるためのさまざまなプログラムが実施されています。さらに、図書を通じた山

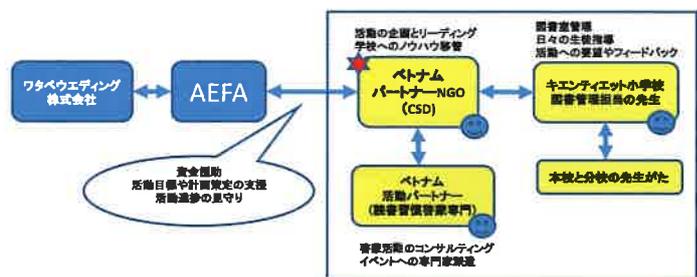


岳地帯の本校-分校の交流や町の学校との交流、図書の相互貸し出しなども視野に入れて、レインボーライブラリーを発展させようと考えています。

ベトナム山岳地帯の少数民族の子どもたちにとって、本と出会い親しむことは、未来を拓くことでもあります。戸籍法によってベトナムでは居住地域を移動することが難しかったため、少数民族の人々は生まれた村で一生暮らすことが珍しくありません。そのため、民族の言葉しか話すことができない人々も多い(特に女性)のです。村以外の世界との接点が少なく、また、それゆえに差別されることも多い状況です。少数民族が置かれているこのような状況に一石を投じたい、という願いがレインボーライブラリープロジェクトに込められています。

レインボーライブラリープロジェクトが掲げている精神は「Colors are brighter when the mind is open」。そのことばとおり、本は子どもたちに新しい知識を啓き、よりいっそう色鮮や

レインボーライブラリー活動実施体制



レインボーライブラリー活動目標・今後の計画

最終目標: 子どもたちが、読書習慣を身に着けて、主体的に読書ができるようになる
成果を測る指標: 生徒の25%以上が、登校日には毎日、自主的に図書館を来て本を借りたり、読んだりするようになる。

今後の計画:

啓蒙イベントを実施: 1回/月、読むスキル向上教育プログラム実施: 1回/月

ベトナム トゥエンカン省 ティエンキエット小学校レインボーライブラリー活動概要

屋内施設の建設、屋外スペースの整備、本やその他備品の購入、読書習慣の啓蒙活動を実施中

最終的には 800冊を目標

| 実施項目 | 概要 | 機能 | |
|------|---------------------|---|---|
| 1-1 | 屋内施設の建設 | 50平方メートル・収容人数は40人程度 | 子どもたちが図書を閲覧・読書するスペース |
| 1-2 | 本・屋内施設備品購入 | 800冊の本を購入 書棚・クッション・テーブル・PC など図書貸し出し設備の購入 | 各種イベントの開催場所 本の整備・貸し出し 本の管理・子どもたちの読書履歴の記録他 |
| 2 | 屋外スペースの整備と備品購入 | 植栽 テーブル・ベンチの購入 | 屋外の読書スペース (天気の良い日は屋外で読書) 各種イベントの開催場所 |
| 3 | 読書習慣を身に着けさせるための啓蒙活動 | 2~3か月に1回のイベントの企画と実施を支援 | 子どもたちの読書への興味の醸成 読んだ本から学んだことを共有しあうなど、発表能力の育成 |



かに輝く世界へと導いてくれます。

本から未知の世界を知るのみならず、本を通じて民族言語以外の言葉を理解し、読書内容の発表を通じて表現力や発言力を養い、町の学校との交流を経験することで、子どもたちは自

分の生まれた村を出て町や都会で堂々と生きるための力を身につけていくのです。

子どもたちの未来を拓くために、学校建設、そしてその先へとAEFAの活動は続きます。



報告：
田中富美子



ベトナムは、53の少数民族が暮らす多民族国家です。それぞれの民族は、固有の言葉、衣服や食文化、生活習慣、生活の知恵を育んで暮らしており、少数民族の存在がベトナムの文化を多様で彩り豊かなものにしてしています。

一方で、少数民族の人々の多くは、中部や北部の山岳地帯に住み、いまだに外の社会との接触が限られた環境で暮らしています。また、山岳地帯には、耕作可能な土地が少なく貧しい生活を送っている人々が多くいます。

そのため、教育の面では、山岳地域に散らばり居住しているため学校への通学が難しい、地域が貧しいため学校の設備や教材が整備されていない、高等教育に進む学力をつけるための課外学習が十分に行われていないなど課題が多くあります。

さらに、子どもの視野を拡げ、考える力を養うために重要な読書についても、親世代に読書習慣が無く、家で本を読むことがない子どもたちが多くいます。

レインボーライブラリーには、本文に書かれた内容に加え、このような環境にある少数民族の人々のさまざまな色の文化を持つ子どもたちが、それぞれその色で輝き、虹のように連なる美しい世界が作られればという願いと夢がこめられています。

キエンティエット小学校のレインボーライブラリープロジェクトは、初めての試みでもあり試行錯誤の部分が多々ありますが、今後のモデルケースとなり活動が広がることを目指して、活動を進めてまいります。

700回超の出前授業、東京都教育委員会後援へ。

2005年より開始したAEFAスタッフによる出前授業。日本の児童生徒に、アジアの子どもの生活や学校の様子をお伝えしてきました。

環境は違えど、まず「知る事」で、今この瞬間を同じ空の下で共に生きる存在として、理解と共感を深めます。また、アジア山岳部の厳しい環境の中で助け合い、たくましく生きる子どもたちの姿を通して、日本の生活は当たり前でないことに気づいたり、「豊かさとは」を見つめ直すきっかけともなっているようです。

出前授業は2018年末に700回を超え、令和元年は東京都教育委員会より後援をいただきました。AEFA理事長やスタッフだけでなく、ベトナムからの留学生やプロジェクト支援者など授業の担い手は多様です。講師自らの経験をもとに、お話しています。

・このじゅぎょうで、いろいろちがうこともあるけれどえがおはかわらないと思いました。(2年)

・今のこの生活は、誰かのおかげで成り立っている。そのことを忘れないようにしたい。(5年)

・多くの民族がいるため、「国語」の授業が多いことがわかった。(5年)

・「経済の発展が生活の豊かさか？」ということを考えさせられた。(6年)

「後援」名義は、出前授業を要請する学校にとっても「安心材料」となります。AEFAの団体としての信用価値が上がるもので、これまでの実績が認知されたという点で意味があります。東京都公立幼、小、中、高、特別支援、全てで2304校(平成31年4月1日現在)へ出前授業をご紹介いただきました。

本年度も多くの日本の子どもたちに“アジアの友だち”に出会ってもらえるよう、活動に邁進してまいります。



株式会社明電舎により芳水小学校とタイのトゥンヤオ小学校との交流が実現

品川区立芳水小学校開校100周年記念行事のひとつとして、タイ王国北部チェンマイ県のトゥンヤオ小学校を紹介する出前授業や、トゥンヤオ小学校訪問、子どもたちが描いた絵画の交換といった交流活動が行われました。中心となったのは、品川区とタイの小学校それぞれと深いつながりのある明電舎のみなさまです。

トゥンヤオ小学校は明電舎の支援により2017年に開校。明

電舎創業120周年・タイ明電舎創立50周年の共同記念行事として校舎が建設されました。(*)

一方、芳水小学校は大正七年、明電舎二代目社長 重宗たけ子氏が、創業者重宗芳水の名前をとって地域のために設立。その後大崎町に寄附され品川区立になりました。

明電舎の長い歴史の中で開設された、ふたつの小学校。学校建設の支援が両校の交流へと発展し、日本とタイの子どもたちの世界を広げ、心をつなぐ支援となりました。

*この時、ガラヤニワッタ中高等学校への設備贈呈も行われました。



トゥンヤオ小学校



芳水小に、
トゥンヤオ小学校から預かった
絵画をお渡し

学校建設



プラスプロジェクト

ラオス編



学校を建てることは支援のはじまり。その後も支援を「プラス」していくことで、学びの環境を維持・改善し、未来への希望を育てることができます。今回は、いまラオスで求められているプラス支援をご紹介します。

35万円

サラワン県ファイラ中学校 スポーツコート

ラオスの学校の校庭は、土。雨が降ると泥だらけになってしまいます。しかも雨季が5月～10月と長く続きます。校庭にコンクリート製のスポーツコートをつくることで、雨季期間中も体操や運動ができるようになります。



40万円

サラワン県 井戸 / 水タンク建設

AEFA建設支援校には井戸を必ず設置していますが、生徒数が増えて水の供給絶対量が不足している学校があります。特に生徒数の多い中高校では教室の清掃や花壇の水やりなど環境整備活動ができなかったり、トイレが使えなかったり、深刻な状況です。



40万円

サラワン県 トイレ増設

AEFA建設支援校にはトイレを必ず設置していますが、生徒数が増え、トイレが不足している学校もあります。特に、



生徒数の多い中高校・女子ではトイレ不足は深刻で、休み時間に長蛇の列ができることも。トイレを整備することで、安心して勉強できる環境を提供します。

10万円～

学習支援金



義務教育である前期中等教育課程（日本の中学校に相当）を修了し、村を出て後期課程（高校に相当）、職業訓練校、大学等へ進学する山岳少数民族出身の生徒がはじめています。

町の学校で必要な制服や教材・文房具、病気になったとき薬を買うためのお金、年に一度故郷に帰省するためのバス代等を支援します。

50万円～100万円

サラワン県小学校 小学校遠足

ラオスの小学校に、遠足行事はありません。

自分の村から一度も出たことのない子どももいます。

遠足支援により、子どもたちはラオスの都市や世界遺産・寺院を訪問し、自国の歴史や文化を教科書だけでなく実際に学ぶことができます。また、集団行動、外部の人への礼儀作法、「トイレの使い方」など、村の文化とは異なる部分も体験します。上級生が車酔いの下級生を介抱したり手を引いたり、思いやりや責任感も生まれます。

（※予算により、参加できる児童生徒の人数と遠足の目的地が変わります）



近年、特に長く関わりのある村において、教育への関心と熱意の高まりをひしひしと体感します。

村人集会も、以前は長老や村の幹部である男性陣の発言が主でしたが、最近は女性陣が中心。「保護者だけでなく、今日はおばあちゃんたちもたくさん参加しているの。今日はみんなの声を聴いて欲しい!」「うちの村だけでなく、地域全体の子供たちに学校が必要なの!!」「村で話し合いを何回もして、木

材もたくさん集めて、プロジェクトに参加する準備はいつでもできています!」と期待のこもった真剣な眼差しと熱気、鼻息に囲まれ、村の未来を託されたような責任を感じて、スタッフの身はしびれます。

学びの充実と、子供たちの希望を育てるために。みなさまの「プラス」プロジェクトへのご参加/ご支援が、地域の発展のための人材育成につながります。

30万円

ボランティア先生たちの給与支援（1年）

ラオスでは、初任の先生は「ボランティア先生」として勤務し実績を積み重ねて、やっと政府から給与の出るガバメントティーチャーになることができます。

山岳部や僻地の学校では常に教員数が不足しています。また、山岳少数民族の小学校では、民族の言葉や文化に理解のある、少数民族出身の先生が必要とされています。

しかし、少数民族出身の方は無給のボランティア先生として働けるような経済的余裕がない場合も多く、教員資格取得後やむを得ず実家に戻って畑仕事を手伝うケースも。

このような初任の先生たちの給与を支援することで、山岳少数民族の子どもたちの学びの環境を維持することができます。



120万円

サラワン県中高校 生徒寮の建設

遠方から中高校に通う生徒のために、寮が必要です。

慢性的な教室不足のため、昼間は寮で授業が行われている学校も。教室を増やすことが難しい学校では、生徒寮を建設することで、学習と生活の場の両方を確保することができます。



130万円(2校)

サラワン県中高校 養蜂

ラオスNGO (ACD) の指導により、生徒たちが学校活動で「養蜂」に挑戦します。

養蜂技術を学ぶだけでなく、将来的には、自分たちで学校運営資金を創出できるようになります。

130万円(2校)

サラワン県中高校 グリーンスクールプロジェクト (環境問題)

ラオスNGO(ACD)の指導により、生徒たちが学校活動でゴミの分別やりサイクルについて学び、植樹や再生紙の製作を実践します。環境問題について知識を得、理解を深め、家族・村コミュニティにも学んだことを伝えていきます。





学校建設プロジェクト

2019年6月現在



① フォイモイ分校



② ホーコンナイ中学校



③ マイバンマセル中高校



④ キムソン分校 旧校舎の前の先生がた



⑤ ナンリー小学校 サッカーグラウンド用地



⑥ ビエンサイ小学校 建設が進む



⑦ ナコック小 旧校舎と村人が建てかけた校舎



⑧ ハーコーナム中学校 村人手作りの寮 屋間は教室としても使用



⑨ カトゥア中学校 村人手作りの校舎



⑩ ララ小学校 旧校舎



⑪ カンバオ分校旧校舎の教室



⑫ バンバン分校 壁がブルーシートの教室

| 国名 | 学校名 支援者（敬称略） | ひとこと |
|----------------------------------|---|--|
| 完成 | ベトナム フォイモイ分校 N&V Bridge + WATABE WEDDING VIETNAM CO., LTD. + 株式会社ディアーズ・ブレイン | AEFA初の日本とベトナムの法人の協同事業。山頂を切り開く土地造成から始まった工事は、大変でしたが、5月31日に無事工事を終えて開校しました。写真① |
| | ラオス ホーコンナイ中学校 山田浩司 | 地域初の中学校として、新たな土地に新設されました。これまでは郡の中心にある中学校へ行くしかなく、キャパオーバーのために進学できなかった生徒が殺到。早くも、教室不足となっています。写真② |
| | ラオス カトウア小学校 戸部克信 | 老朽化した小学校を村人たちが直しながら使い続けていました。しかし、僻村のためなかなか支援の手が届きませんでした。今年9月の新年度から、急遽かかって新校舎で授業を行うことができます。 |
| | ラオス マイバンマセル中高校 荒川商業高等学校同窓会桐門会 | 2021年度末の荒川商業高等学校閉校に伴い、同窓生のみなさんが「母校で教育をしていただいた恩返し」として“ARASHO”プロジェクトが始まりました。ラオス南部に中高校を建設、“ARASHO”が新たに生まれ、子供たちの未来をつくっていきます。写真③ |
| 建設中 | ベトナム ゴックタン分校 アジアの子供たちに小学校をつくる会 | クラウドファンディングにより300人以上の支援を受けて、9月開校を目指して工事中。 |
| | ベトナム デオムン分校 大野美之 | 12月の開校を目指して工事中。トイレは、2つの小学校の生徒募金（福井県平章小+町田市南大谷小）と紀尾井町ロータリークラブ、西脇修様のご寄付で作ります。 |
| | ベトナム キムソン分校 大阪府立柏原東高等学校同窓会 | 2020年度末に閉校する柏原東高校同窓会が、卒業生の思いを形に残したいとベトナムに新校舎建設を支援。写真④ |
| | ベトナム グエンチーミンカイ小学校 アセアンスマイルスクールプロジェクト | アジアの教育支援を束ねるプロジェクト（6社がご参加）からのご寄付により、ベトナム中部で建設中。11月に開校式の予定。 |
| | ベトナム ナンリー小学校・中学校 株式会社ディアーズ・ブレイン + 沖縄ワタベウエディング株式会社 | 教室の建設に加えて、サッカーグラウンド作り、プロのコーチによるサッカー教室開催とサッカーチームづくりを進めます。写真⑤ |
| | タイ メーバン小学校 チュラコス株式会社 | 学校の歴史は1938年にさかのぼり、築45年の老朽木造校舎は危険な状態でした。40km離れた村からも子供が来ており、寮というより「家」のような雰囲気助け合いながら生活しています。子供たちは学校活動で野菜やかえるや豚を育て、自給自足。地域住民も、子供たちに農業を教えたり、協力しています。 |
| | ラオス ブーバチアン中学校 エルセラーン1%クラブ | バチアン郡の象徴でもあるバチアン山のふもとにあります。児童生徒総数872名（2018-2019）という地域の中心基幹校です。老朽化した校舎を新しく建て替え中で、建設は順調に進捗しています。写真⑥ |
| | ラオス ビエンサイ小学校 エルセラーン1%クラブ | |
| | ラオス ナコック小学校 小川栄二 | 村人がお金を出し合い、校舎を自分たちで建て始めていましたが、洪水でお米の不作が続くなどで途中で断念。しかし、子供たちに教育を受けさせたいという願いはとて強く、その熱意に共鳴した支援者のおかげで建設が決定。現在建設中です。サポート支援：株式会社プロトウェイ 写真⑦ |
| | ラオス ハーコーナム中学校 川邊恵美 | 森の奥の少数民族ンゲ族の村に、2014年度に小学校、2015年度に中学校を建設支援。村人が旧校舎の木材を使って生徒寮を手作りしたり、教育への理解と協力が大きく高まりました。「地域の子供たちを中学校まで通わせたい。」という村人の熱意に支援者が共感、増設が決まりました。写真⑧ |
| | ラオス カトウア中学校 石塚勝巳 | 2015年度建設プロジェクトの増設。学校と地域の協力関係はとて良好で、村人が校庭をスポーツがしやすいように整地するなど、支援。教室数が確保されれば、より多くの生徒が地元で義務教育を修了することができます。写真⑨ |
| | ラオス ファイルーシ小学校 WANG基金 藤原和博 | 2015年度建設プロジェクトの増設。同校は、学業成績優秀、サッカー大会でも優勝するなど文武両道で、地域のモデル校に育っています。 |
| | ラオス ララ小学校 WANG基金 藤原和博 株式会社にしのあきひろ | 山の奥にある小さな村の分校。川の渡渉が必要なため、雨季は先生が学校に来られず授業が行われなことも。アクセスが悪く外部との関わりがほとんどなかったため、当初村人の警戒心は強く、教育への理解も低い状態でした。度々訪問を重ねるうちに、学校プロジェクトの実現に繋がりました。写真⑩ |
| | スリランカ イハラタルドゥワ小学校 エルセラーン1%クラブ | |
| スリランカ ポーサレー小学校 エルセラーン1%クラブ | 4月のテロで影響が心配されましたが、地域のみなさんは全員無事。建設は若干の遅れがでたものの、基礎工事が終わり、柱が立ち上がり、進捗しています。 | |
| 計画 中 | ベトナム イエンニン分校 | AEFAの現地視察では、それぞれの学校がある村の人々、生徒の親御さん、先生がたから、子どもたちの教育環境の整備・充実の熱い思いを受け取りました。 |
| | ベトナム スアンバン小本校 | |
| | ベトナム カンバオ分校 | 米倉庫を改造した老朽化した教室は暗くて、危険。地域の人々と学校関係者は新しい校舎を待ち望んでいます。写真⑪ |
| | ベトナム ハンバン分校 | 教室の壁にビニールシートをはり、雨風をしのいでいる教室で生徒たちは勉強しています。しっかりした造りの教室を新築するための支援が必要です。写真⑫ |
| | ベトナム モニユー分校 | 同上。AEFAの現地視察では、教育への熱い思いを現地の人々から受け取りました。 |
| | ラオス マイバンマセル中高校 カトウア中学校 生徒寮 | 2018年度、新たな土地を生徒たちが造成、新校舎（4室）と生徒寮がOPENしました。現在、6村から生徒が通います。地域の基幹校のため進学希望者が多く、教室不足となっています。2013年に村人が木材を出し合い仮小屋を建設した、地域初の中学校。学校に通いたい！という生徒たちの姿に共感、遠くの村から通う生徒のための寮を支援します。写真⑬ |

※フレンド会報27号 P2建設リストに誤りがありました。正しくは、「ラオス サラワン県 ムーパッディ小学校 立石道博」 お詫びとともに、訂正いたします。

第13回 AEFA フォーラム開催

2019年3月2日(土)、九段下「かがやきプラザ」にて第13回 AEFAフォーラム～会員の集いを開催しました。

今回のフォーラム企画の大きな柱は2つ、①3人の支援者の方々に思いを語っていただくプレゼンテーション、②支援ニーズのテーマ別に、会員同士が語りあうグループセッションでした。

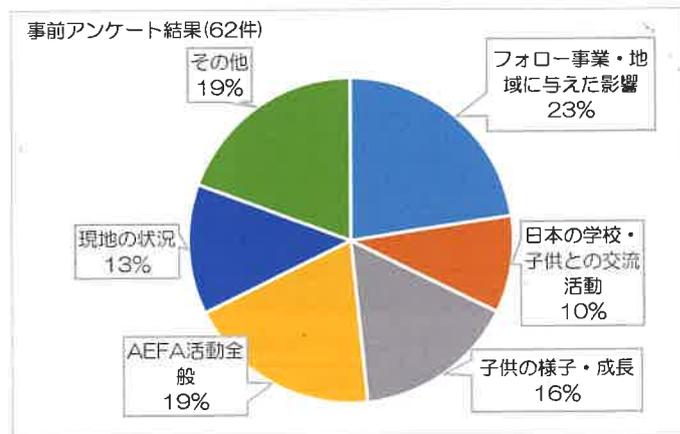
①のプレゼンテーションでは、3人のご支援者に、ご自身の支援プロジェクトの内容とともに、なぜ支援を続けられているのか、支援から学んだことを中心にお話しいただきました。このセッションへの出席者アンケートで、「支援を通して学ぶことが多いことがわかった」「AEFAプロジェクトには、“楽しさ”や“ぬくもり”があると感じた」「個人として、学校建設の大きな寄附でなくとも参加し関われることはどんなことか、もっと知りたい」との声をいただきました。

②のグループセッションでは、参加会員全員がテーマ別グループに分かれ、課題や取り組みについて話し合い、知恵を出し合いました。初めて話す人が多かったにも関わらず話し合いは白熱、時間が足りないほどでした。会員のみなさまの熱量が感じられるセッションとなりました。今後も、このような機会に、活動を支えてくださる会員のみなさまに現場の状況やニーズをお伝えすると共に、課題を一緒に考えていただけたらと考えています。

このような新しいプログラムを設けた背景としては、新たに事前アンケートを行い、どんな情報を知りたいか?を寄せていただき、プログラムの企画に反映させたことがあります。ご意見をお寄

せいただいた皆様、有難うございました。

次回フォーラム(来春開催予定)では、時間配分にゆとりをもって会員同士が自由に歓談もできる、テーマごとに深く具体的に話し合えるプログラムを計画しています。ご参加のみなさま、ありがとうございました。



---プログラム---

(お名前の敬称は略させていただきました)

- 2018年度事業報告・事業計画発表 (AEFA代表)
AEFA講師による ミニ出前授業 (AEFA講師団)
- 支援者が語る
 - ・黒板プロジェクト 株式会社東京黒板製作所 松原 将人
 - ・ラオスの子どもたちと共に 神崎 敏彦
 - ・支援して学んだこと 株式会社フォーサイト 山田 浩司
- 各テーマに分かれてグループディスカッション
(構成・司会:鈴木雅子 記録撮影:工藤卓二)



【新聞報道】

柏原東高校同窓会による学校建設支援プロジェクト

5月28日（土）毎日新聞夕刊（大阪版）

6月6日（木）日本経済新聞（関西版）夕刊

ベトナムの小学校新校舎建設プロジェクトが、相次いで新聞報道されました。

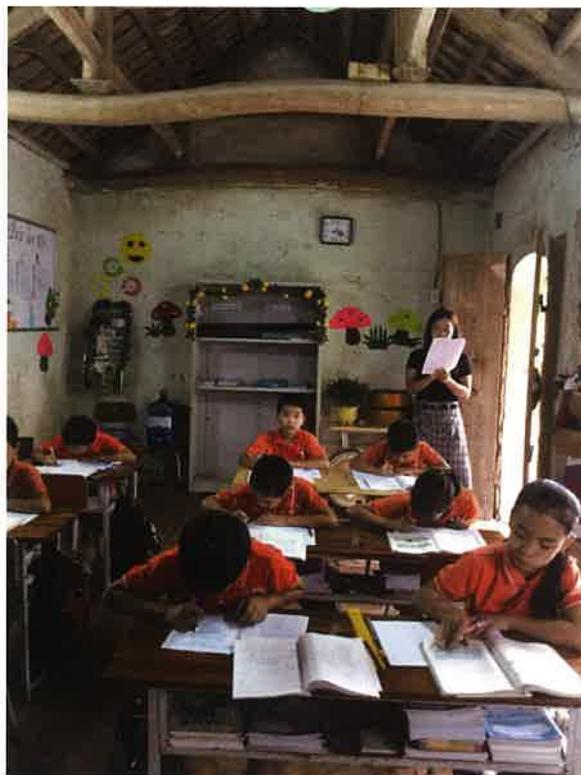
プロジェクトを支援するのは、2020年末に閉校する柏原東高等学校（大阪府柏原市）の同窓会です。同窓会費をAEFAに寄附し、ベトナムの小学校新校舎を建設することが記事になりました。

柏原東高校は昭和52年に地元の強い要望で開設された府立高校ですが、大阪府の高等学校再編成にともない、閉校されることが決まっています。母校を愛する多くの卒業生の思いを形にしたいと、ベトナムでの学校建設を支援することが決まりました。

その思いを託す事業者としてAEFAが選ばれたことは、重い責任を感じるとともに、大きな喜びです。母校の思い出をベトナムの未来の後輩たちへとつなぐ新校舎は、2019年7月頃に着工予定です。

掲載された学校の写真：

柏原東高の同窓会が支援するベトナム北部のバクザン省の農村にある分校
現在の狭い教室で勉強する子どもたち



リレートーク Why AEFA?

横江 友則

一般社団法人 グローカル交流推進機構 専務理事

阪急電鉄勤務時代に、関西私鉄各社で共通利用できる磁気カード「スルッと KANSAI」を立ち上げ、その後、交通乗車決済サービス「PiTaPa」を近畿一円に普及させた。株式会社スルッと KANSAI 代表取締役専務、株式会社大阪メトロサービス常務取締役を歴任。Visit Japan 大使。



AEFA理事の亀井善太郎さんとは、10年以上前から交流を続けてきました。でも、お互い忙しくて日本でも数年会うチャンスがありませんでした。ところが、3年前、東南アジア出張中に、その亀井さんとラオスのピエンチャンの空港で偶然一緒になったのです。飛行機の乗り継ぎ待ちの数時間の間、亀井さんはずっとAEFAの活動について熱っぽく語り続けていました。そのマシンガンのようなトークを聞くうちに、いつの間にか自分も一緒に活動する気持ちになっていました。1年後にドナーとなって学校を1校作りました。実際に現地の開校式にも行きました。その時、「こんなに歓迎されているのか?」と思いましたね。

さて、私たちはなぜ支援をするのでしょうか？ ドナーさんはなぜ寄付をしてくださるのでしょうか？

私たちは、誰かの笑顔を見ることを自分の最大の喜びだと思いつているのだと思います。そして、自分の行動により誰かの笑顔を見たとき、私たちの方がより笑顔になることができると思います。

現地の欲しているものをいかにうまくマッチングしていけるか。現地の人々が気づいていないニーズまでくみ取ってよりよい提案ができるか。それこそがAEFAの役割として問われているところです。私は、普段は大阪に住んでいますが、関西支部の仲間たちと一緒に、活動を支えて、よりたくさんの笑顔を見たいと思っています。

次のバトン： 菊岡信義さん（AEFA関西支部長）



AEFA往来 2019.1~2019.6

- 1月17日: 決算理事会=2018年度事業報告・決算報告・承認
- 27日: 大阪/柏原東高校同窓会総会 小学校建提案
 - 承認議決にビックリ、そして感謝
- 2月14日: 定例理事会 2019年度事業方針=累計300校達成を!
 - 理念の再確認や新プロジェクト挑戦の方針を話し合う
- 22日: 東京都教育委員会から出前授業に「後援名義の使用許可」
 - 弱小NPOが都教委後援を取得できたことは大変な名誉。大きな責任も背負うが、講師一同には大きな励みになる
- 3月2日: AEFA会員総会(21名)・・・活動報告
フォーラム(会員+支援者+教師+ボランティア=50余名)
- 7日: 丸紅で谷川が講演=従業員組合対象・30余名参加
- 16日: エルセラーン1%クラブ会議・ラオス2校支援決定(同社累計42校)
AEFA関西支部打ち合わせ
- 20~25日: ベトナム出張(谷川・田中・菊岡+支援者候補)
 - フォロー(1校)+候補校(10校) 課題を見極めつつ視察
- 25~29日: ベトナム出張(田中・金子)
 - 鎌倉学園ベトナム視察ツアーは生徒・教師30名、4年連続
- 4月7~10日: ベトナム出張(金子・坪井)
ラムトゥルン小学、クアントゥルン小学開校式
- 17~5日: ラオス出張(谷川・菊岡+支援者1名)
ロムサッタイ小学、タームアンカオ小学開校式
- 25日: 浩志会(会社経営者の研究会)で谷川が講演
- 5月22日: スリランカのパートナーダヤシリ氏来所、建設中2校の報告
- 29日: AEFA広報会議 広報編集方針やPR活動など打合せ
- 6月9日: 都立荒川商業高校同窓会総会でマイバンマセル中学校(ラオス)建設報告
 - 閉校となる同窓会資金で建設=新しい取組みの第1号に

人間を育てること、子どもへの投資は、未来への最大の投資である。

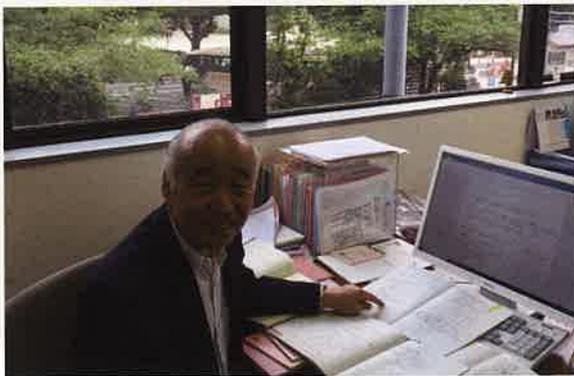
去る6月、荒川商業高等学校同窓会桐門会の令和元年度総会に参加した。同校は2021年3月に閉校し、新たな仕組みの学校として生まれ変わるになっている。これまでの同窓会費用を、自分たちが受けてきた教育への恩返しと次世代への貢献のために、ラオスの「中等学校」建設支援に贈呈いただいた。

総会後の懇親会では、「高校時代は本当に楽しかった。大事な思い出」と同窓のみなさんが和やかに歓談する輪に加えていただいた。その思い出は、私も同じである。高等教育を受けることができ、その後のつながりの中に今の自分がある。

ラオスは、「学校クラスター制」をとっており、地域の10くらいの村の学校をとりまとめ、1つの学校群としている。地域の中心となる大きな村に、小学校の「本校」や「中等学校」をおき、近隣の小さな村や支村には、低学年児童が学ぶ「分校」をおく。AEFAでは、これら学校群に小学校(初等教育課程)~中学校・高校(中等教育課程)一貫となる学校を10校支援してきた。

当初は小学校のみを支援してきたが、小学校を修了した子どもたちが通う中学校がなく、ごく限られた恵まれた環境の子どもだけが、郡の中心部の中学校へ行くことができた。

せめて子どもには義務教育である中学校を修了させたい、地域のこと



を自分たちで発展させたい・・・という村人たちの熱望がきっかけで、中学校の建設支援をはじめた。15km以上離れた村からもやってくる生徒たちのために、寮、蚊帳、マットレス、鍋など附属設備の支援も欠かせない。多様な支援によって、地元で義務教育を修了できる子どもが増える。

郡中心部から離れた地域では、ベトナム戦争時に山岳地帯から逃れてきた少数民族の人々がコミュニティを作った。隣り合っても、民族の言葉も風習も異なるため、コミュニケーションをうまくとれず、誤解やいさかいが起きることもある。

しかし、「中学校」をつくることで、子どもを通して保護者や村人同士が知り合い、「子どものために・・・」と地域のまとまりと融和力がうまれる。

最初のうちは、村として学校プロジェクトに協力することは「負担」に思う人もいたり、協力度合いの大小でトラブルが起こることもある。一方で、村人たちは、子どもたちが学校で学んだことを喜々として語ったり、新しい知識を家族に教えてくれたりすることに、大きな喜びを感じているという。

卒業生の中には、教員資格をもって村へ戻ってくる者、高校から大学へ進学したり、ベトナムの大学に留学している生徒もいる。

こうしたことの積み重ねと、小さい成功例を産み出し、少しずつ理解者と協力者を増やし彼らとともにプロジェクトを作っていく。時間はかかるが、地域がだんだんと学校を中心にまとまってゆき、自ら地域を発展させてゆく原動力となっていく。

時間を味方にすることで、AEFAのプロジェクトは成り立っているのかもしれない。

「学校」が村の求心力となり、地域力を高めていく

Tanikawa's Notebook 理事長・谷川洋



私たちは各国のパートナーNGOと手を携えて活動しています。



ベトナム: Viet-Nam Assistance for the Handicapped (VNAH) / Saigon Children's Charity (SCC) / Research and Communication Centre for Sustainable Development (CSD)
 ラオス: Association for Community Development (ACD)
 タイ: Raks Thai Foundation (Care Thailand)

